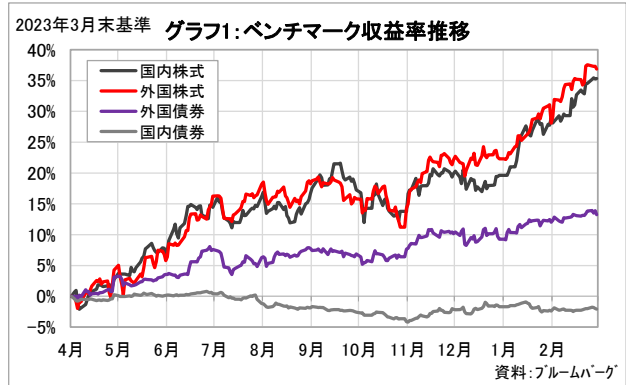


2月の市場動向と3月の注目点

1. ベンチマークの推移 ～内外株の上昇継続

グラフ1は昨年3月末を基準とした内外4資産ベンチマーク収益率の推移です。2月も内外株は力強く上昇し年度初来の収益率はいずれも35%を超えました。日本株の上昇率は欧米株を上回りましたが、外国株式は円安が追い風となりました。長期金利は上昇したものの外国債券も円安に支えられ底堅く推移しました。国内債券は2月はほぼ横ばいで年度初来では小幅のマイナスです。



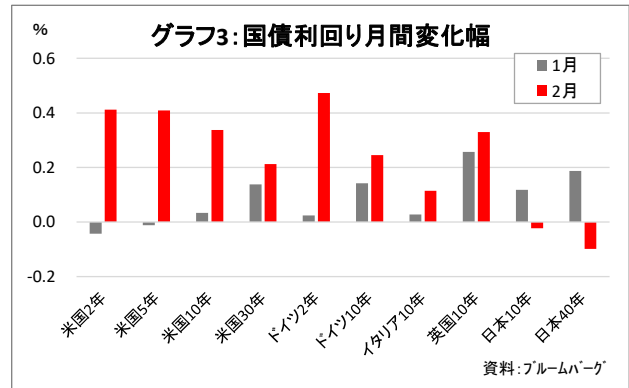
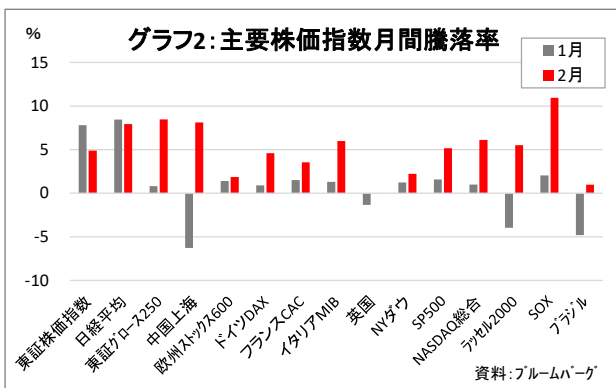
2. 各市場の動き

① 内外株式 ～日本株が大幅上昇、日経平均株価は史上最高値更新

日本株は年初から2ヵ月連続で大幅に上昇、大型株が主導し日経平均株価は34年ぶりに史上最高値を更新しました。年初から下落が続いた中国株も当局の株価対策等により春節の休場明けに急反発、欧米株も値を上げました。米国半導体大手の決算を好感し日本を含めAI関連が大幅上昇しました。

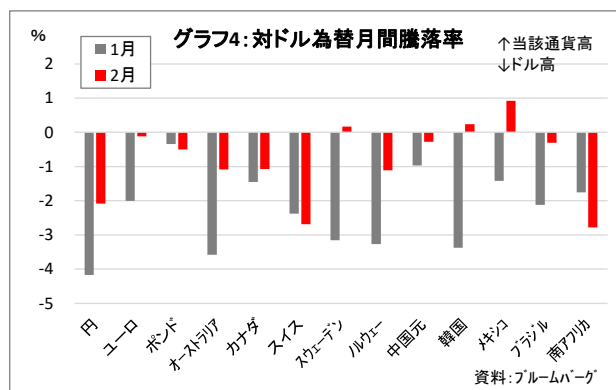
② 内外債券（長期金利）～欧米長期金利が上昇

欧米長期金利は堅調な米国経済指標や欧米当局者による早期利下げ期待牽制発言から上昇しました。欧米とも中短期ゾーン主導で上昇、欧州内ではイタリアの上昇幅が小幅に留まり対ドイツ利回り格差は縮小しました。日本の超長期金利は小幅に低下しました。



③ 為替 ～円安

年初から2ヵ月連続で円安が進行しドル円は再び150円台にのせました。米国同様、欧州金利も上昇したためユーロは対ドルではほぼ横ばい、ユーロ円は一時163円台まで上昇しました。オーストラリアやカナダの通貨は軟調、人民元は小幅の続落です。



3. 2月の主な出来事

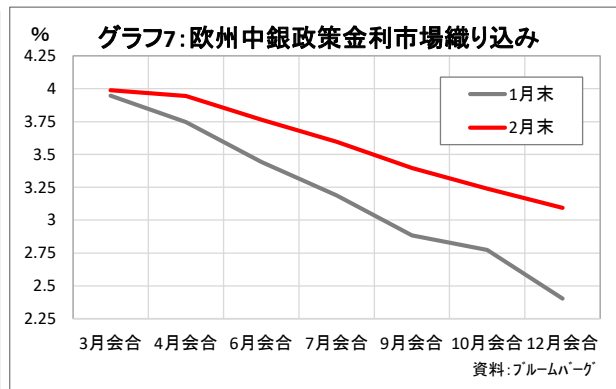
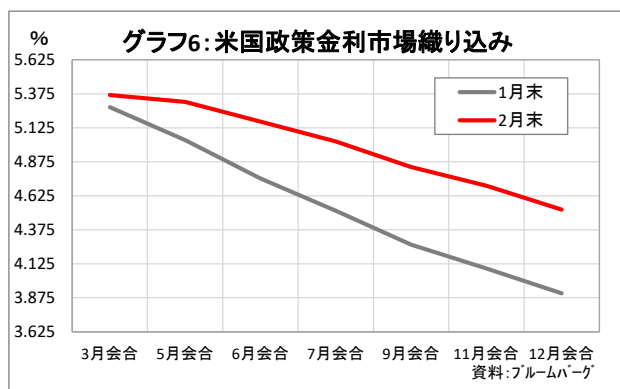
① 日経平均株価が史上最高値を更新

日経平均株価は2月22日に39,098円で取引を終了、終値としては1989年末に記録した38,915円を上回り34年ぶりに史上最高値を更新しました。外国人投資家が主役とされますが、今後デフレ脱却観測の高まりとともに日本の家計が株式市場に向かうことも期待できそうです。もちろんバランスシート改善を図る企業の自社株買いも大きく寄与していると思われます。



② 金融政策

2月は主要国の金融政策決定会合は予定されておらず、新たな発表等はみられませんでした。しかし米国の堅調な経済指標等を背景に欧米当局者から早期利下げ期待を牽制する発言が相次ぎ、市場の利下げ観測が大きく後退しました。一方、日本銀行関係者は今春のマイナス金利解除を示唆しながらも、その後想定される利上げについては非常に慎重な姿勢を示したことから日本の長期金利はやや低下しました。中国は1年ものは据え置く一方で5年ものプライム金利は0.25%引き下げました。従来と比べ大幅な引き下げで住宅問題への対応とみられます。



③ その他

米国共和党大統領予備選ではトランプ前大統領が勝利を続け、ヘイリー候補の地元サウスカロライナ州でも圧勝しました。ヘイリー候補は引き続き選挙戦を継続するとしていますが、3月5日のスーパーチューズデーで決着がつくとみられます。

ウクライナ軍は長く戦闘が続いた東部アウディーイウカから撤退、劣勢が続くなかゼレンスキー大統領はザルジニー司令官を交代させました。ロシアでは反体制派指導者のナワリヌイ氏が謎の死を遂げました。

政治資金問題に対する国民の批判が高まり、岸田政権の支持率低下が加速しました。

ビットコインが急騰し6万ドルを突破、2021年11月に記録した6万8千ドル台が視野に入ってきました。

4. 3月の注目点

① 金融政策決定会合

7日に欧州中銀、19日に日本銀行、20日に米国FOMCがそれぞれ結果を発表します。日本のマイナス金利解除は4月会合で決定との見方が多いものの、一部では3月会合を予測する向きもあります。いずれにせよ市場はほぼ織り込んでおり、その後想定される利上げについての発言に注目です。欧米は現状維持が確実視されていますが、今後の指針等に加え資産残高縮小（量的引き締め）ペースが焦点となりそうです。またパウエルFRB議長が6～7日に半年に1度の議会公聴会に臨みます。

② その他

株式市場の主役となった半導体、特にAI関連銘柄の動きに注意したいと思います。3月18日から3日間の予定で開催されるAIに関するコンファレンスへの市場の関心は高いと思われます。

政治面では3月5日のスーパーチューズデー、ウクライナ支援をめぐる米国議会の動き、17日のロシア大統領選挙等が注目点となりそうです。中国では5日に全人代が開会し成長率目標等が焦点となりそうです。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用第一部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2024年1月以降のレポート

- 1月 4日号 12月の市場動向と1月の注目点
- 1月 9日号 2024年金融市場の「初夢」
- 1月 15日号 2023年度第3四半期の市場動向と今後の注目点
- 1月 23日号 外国人投資家の日本株買いと個人投資家の売り
- 1月 26日号 2024年は円高転換、それとも円安継続？
- 1月 30日号 米国政策金利、当局予測と市場織り込み
- 2月 1日号 1月の市場動向と2月の注目点
- 2月 28日号 異論 為替相場に対する見方 その2

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人投資信託協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号
電話 03 - 4223 - 3134

- *本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。
- *本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。
- *なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。